

令和元年度 第1回花巻城跡調査保存検討委員会会議録

日時 令和2年1月16日(木) 14時～

場所 花巻市石鳥谷総合支所1階 委員会室

出席委員 高橋信雄委員、関豊委員、熊谷常正委員、室野秀文委員、中村良幸委員
(全委員出席)

オブザーバー 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課 高橋 祐 文化財専門員

報道関係者 なし

傍聴者 なし

事務局 花巻市教育委員会 佐藤 勝 教育長、岩間 裕子 教育部長
文化財課 平野 克則 文化財課長、小原 克仁 文化財課課長補佐
佐藤 幸泰 埋蔵文化財係長、橋本 征也 主査
菊池 賢 主査、酒井 宗孝 主任専門員
高橋 純 学芸調査員
花巻市博物館 高橋 静歩 主任

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 令和元年度 花巻城跡内容確認調査の結果について

(2) 花巻城跡保存計画の策定について

4 そ の 他

5 閉 会

1 開 会

(司会：平野課長) お疲れ様です。委員の皆様には、大変お忙しいところお集まりいただき

まして、ありがとうございます。本日の進行を務めます、文化財課長の平野克則といたします。宜しくお願いします。

会議に先立ちまして、本日オブザーバーとして岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課の高橋 祐 文化財専門員に出席いただいております。ご紹介いたします。

続きまして、本日出席しております花巻市教育委員会の職員を紹介いたします。

教 育 長 佐藤 勝 (さとう まさる)

教育部長 岩間 裕子 (いわま ゆうこ)

文化財課 課長補佐 小原 克仁 (おばら かつひと)

文化財課 埋蔵文化財係長 佐藤 幸泰 (さとう ゆきひろ)

文化財課 主 査 橋本 征也 (はしもと ゆきや)

文化財課 主 査 菊池 賢 (きくち さとし)

文化財課 主任専門員 酒井 宗孝 (さかい むねたか)

文化財課 学芸調査員 高橋 純 (たかはし じゅん)

博 物 館 主 任 高橋 静歩 (たかはし しずほ)

それでは、ただいまより令和元年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会を開会いたします。はじめに花巻市教育委員会教育長 佐藤 勝 よりご挨拶申し上げます。

2 あいさつ

(佐藤教育長) 今日、大変お寒いところ、そしてお忙しい中、委員の皆様そして県教委の高橋文化財専門員さんにもご出席いただき、大変ありがとうございます。数えたらこの調査保存検討委員会は、平成27年から7回目ということなそうでございますが、本日は昨年9月から11月に調査いたしました本丸御殿の調査結果、及びこれからの保存計画についてご報告し、委員の皆様からご専門の立場でご意見をいただきたいと思っております。

調査結果については、後から説明があろうかと思いますが、鳥谷ヶ崎城から花巻城に改変された時の工事跡、それから花巻城となってからの改築の部分。この辺がポイントとなるということでございますし、保存計画については、簡単に言うと内容の確認調査を令和2年までとしておりましたけれども、まだまだ解明に至らず、継続した調査が必要であるとの観点から計画を見直したいということでございます。こういった担当からの様々な調査結果、あるいは見解についてご指導いただければと思います。また、保存経過について

は、まだ全く白紙の状態でありますけれども、今後の進め方、あるいは準備しておくべきこと、こういったことについてもご意見を賜ればありがたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 協 議

(1) 令和元年度 花巻城跡内容確認調査の結果について

(平野課長) それでは、次第の3 協議に入ります。ここからの進行は花巻城跡調査保存検討委員会設置要綱 第4条第2項により委員長にお願いいたします。

(高橋委員長) それでは、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本会議を公開にすることにご異議ありませんか。

(委員) 異議なしの声

(高橋委員長) 「異議なし」ということですので、本会議は公開といたします。では早速ですが、(1) 令和元年度 花巻城跡内容確認調査の結果について事務局の方から報告をお願いいたします。

※ (事務局から説明) 資料No.3

(高橋委員長) 今年度の調査について、「だいぶ解ってきた」というか、「いや、これからだ」というか。非常に今まで想定した以上の調査成果が上がっていると思われましたが、委員の皆様からのご意見をいただきたいと思います。

(関委員) こうなってくると、真ん中のこの折れ曲がっている所を調査区設定しているというか。輪郭を追いかけるとなると、かなりパツとしていない気もするので。どのラインで建物が、軸が変わるかっていうのがうまく出てくると、ほとんど決まるような気もするのですが。皆さんどうでしょうか。

(室野委員) 中庭に想定されるその石の列ですね。それが「雨落ち」そのものになるかどうかは兎も角として、建物の輪郭に沿う形で配置されたものの可能性は、私も高いと思うんです。ですから、中庭の辺り、中庭にはまるのがその辺りとして、例えば、一番西側ですね、L字形。「御居間」から「菊ノ間」、「桐ノ間」、「表御番所」。これ、中世の主殿の系譜を引くような建物ですね。この建物の南辺とか、南側の端だとか。そうですね、南側

の縁を確定すると、あと話が早いような気がするんです。

(熊谷副委員長) そこだったら「雨落ち」は出てくる？

(室野委員) 可能性は高いと思いますね。南側の、その絵図でみると縁側が描いてありますね。そのあたりだと、やっぱり同じような石の列だったり、雨落ちのこういう溝が出てきたりという可能性はあると思いますので、南側とその、「御玄関」と書いてあるあたり、その辺をですね。余力があれば更に北西のコーナーを見つけるようなことで進めたらいかがかんと思うのですが。

(熊谷副委員長) 少なくとも去年と今年の発掘の中で、東西に合うような建物以外に、西側建物の東部分、松川家(の図面)にあるような軸線がずれたような遺構は無いのですか。

(菊池主査) 昨年東西方向にきれいに並ぶ集石があったのですが、逆にそれに嵌らないものも何個か見受けられたところですから、そういったものがもしかすると、別時期の遺構なのではないかと推測される場所ですが。如何せんトレンチ調査ですので外への広がり方というのが良く分からない状況です。

(熊谷副委員長) 1点、基本的なことですが、今年度も含めて根石を持っている集石群に「何号」「何号」と付けていますよね。これ、将来的に混乱するのではないかと思うんですよ。普通だと建物毎に、例えばSBか、SAの何号とか。何か建物を特定してナンバーを振っていかないと混乱してしまう気がしますね。今年度を見れば、少なくとも本丸御殿中の西側・東側の建物を通しナンバーとすると、ちょっと混乱してくるような可能性があるんで、その辺をそろそろ整理しておかないと今後大変になってくるのではないかと思うのですね。室野さんどうですか、そういう遺構名称どうやって…。

(室野委員) 今年まではやむを得ないかと思います。建物が、どこからどこまでなのかというのがよく分からないところがあるので、次年度あたりにきちんと整理いただくということでもよろしいのではないのでしょうか。

(高橋委員長) そもそもこの調査した段階では、ある程度ここに建物があったということが確認できればいいという。目的自体がそうでしたから。ただこの2年間の調査でこれだけ分かってきたら、「全部残っているのではないか」ということなので、改めてやっぱりきちっと。せっかく今年の調査でこれだけ分かってきて、しかも遺物も良いですよ。それなりの時期的なものを示すものまで出てきたとなると、本丸が初期の段階と最期の段階と、その途中はどうあれ、そういう事まで分かってくるということが、少なくとも今後そ

ういうことが見通せるところに来たことは、非常に大きな成果ではないかと思うのですが。

(熊谷副委員長) 中村さん、今年の調査はいかがでしょうか。

(中村委員) やはりどうしても南の方が寂しい。南西のところやはり。角を確認しないと、建物の位置はこれだと分からないですね。だから、確かに方向が変わっているので、松川家の図面とは何となく合うような雰囲気はあるのですが、どうしてもやはり建物の一番端が欲しいなという気がする。位置が決まらない気がするのですが、どこかワンポイントで当てたいといいますか、ここまでくると縁を出したいですね、やはり。

(関委員) これだけ軸ずれているということは、新旧によるということ。

(熊谷副委員長) もちろんそうなのでしょうね。それで、ずれている方が古い。

(中村委員) だから、倒壊したというのも全部倒壊しているのではなくて、案外残っていた部分があったのかもしれないですね、建て替える時にね。だから、やはり縁をどうしても見たい気がします、ここまで来ますと。

(熊谷副委員長) あとですね、私は古いほうといいますか、段丘礫層が好きなものですから。深掘りの断面図を見ますと、昨年度と今年度で第Ⅳ層にしている層が大体 30 cm くらいでしょうか、下がっているわけです。ところが、付図の 5 などの花巻城の絵図を見ると西側建物の東端と東側建物の間には、何か段差みたいな区画があるのですね。ここでたぶん高低差が、自然地形であった可能性があるのではないですか。むしろそれをこの高低差は反映しているのではないかと。東側に行くにつれて次第に下がっていくのですが、造営の時に建物のこのラインで、ある程度造成を変えているのではないかという気がしますね。ただ、青花の碗が出ているにせよ、それだけで年代を一気に決めていいかどうかというのはちょっと分からない。本当にそれ以外の遺物が入っていれば…。もうちょっと遺物が、やはり少なすぎる。年代決定としてはもうちょっと慎重にやったほうがいいのではないかなという気はします。

(高橋委員長) あと、瓦の件です。解体するときにみんな剥がして持ってったということは、当然考えられるわけけれども、今回これだけ瓦が出てきたということは…。

(熊谷副委員長) でも、少ないですよ。

(高橋委員長) 少ないですね。建物の中で一部だけ瓦にするのはあり得るでしょうか。

(室野委員) 私は、御殿に使っている瓦ではないのではないかと思います。むしろ、周りの門だとか、門の脇にある倉とか櫓のような、そちらのほうが瓦の優先度が高いですね。

(熊谷副委員長) 逆に、そうしたならば、あれだけ立派な礎石を持つような建物が必要なのかということになる。

(室野委員) 建物の柱が太ければ。

(熊谷副委員長) 瓦葺の建物でなければ、そんなに立派な礎石で造らなくてもいいのでは？

(室野委員) 仙台城の本丸にあった大きな建物。あれもこんなに大きな礎石ですよ。ですが、あれは瓦葺ではない。檜皮葺です。

(熊谷副委員長) そうすると、古代寺院みたいに、瓦葺だから立派な礎石建ちにしなければいけないというようなものでもない。

(室野委員) [檜皮] か、あるいは [こけら] か、柁葺か。そんな感じのものが多いと思うのです。遠野のお城は茅葺ですね、本丸御殿でも。そういうのもあるぐらいですから。御殿の位置から出てきたからといって、直ちにそれが御殿に使われているとは、思わない方がいいと思います。もし御殿にそのように本格的に使っていたのであれば、中庭の雨落ちではないかという石列、ああいうところに建物を解体する時、バサバサ落として、溝みたいなところにビッチリと入ってきますので。だから多分むしろ周辺の建物に使われていた瓦である可能性が高い。丸瓦の形状を見れば、明らかに本瓦葺ですから、お城の出入り口の門とか櫓の上に使われていた可能性が非常に高いと思います。

(熊谷副委員長) あと、これは印象ですけれども、「粘土入り土坑」。これは、ちょっと新しいのではないのでしょうか。この時期に伴うものの根拠は、どうも層位的にも、掘り込み面を見ても、ややあやしいような気がしました。

(室野委員) あと、絵図について。例えば付図の5の方は、西の棟から東の端の棟まで方向が一貫していて、松川家に伝えられていたというこの絵図面の方が斜めに振れているわけですよ。これらは、もしかしたらあの菊池さんがおっしゃるとおりかもしれないのですけれども、昔のこういう屋敷の図というのは多少方向が振れていても、真っ直ぐに描いてしまっている場合がありますので、あまり固定的には考えない方がいい。ちょっと気を付けなければいけない部分ではあると思うのですけれども、実際はこちらの時もですね、多少は振れている可能性があると思います。

(関委員) 見取り図みたいなものですね。

(室野委員) 実際振れているのに格好良く描いた図面が往往にあるので。その辺は注意が必要かなと思います。

(酒井専門員) 室野さんどうでしょうか。盛岡城の本丸もずれていますよね。

(室野委員) 本丸御殿は、だいぶ振れています。

(酒井専門員) それは、やはり時期差ですか。

(室野委員) 真っ直ぐ描いているところがありますね。

(酒井専門員) 曲がっているのは、時期差ということですか？

(室野委員) それぞれの建物で時期が違うことも考えられるのですが、ただ、盛岡城の本丸も真四角ではないので、その時の南辺に合わせているか、西の辺に合わせているかで、その時の建て方がありますので。

(酒井専門員) それからもう一つは、石敷きのようなものについて。今回見つかった石敷きのようなものは、盛岡城ではどうでしょうか。

(室野委員) 本丸御殿では、雨落ちの溝は素掘りでした、確認できたものは。櫓の雨落ちも素掘りでした。素掘りで、櫓から落とした瓦が底にビッシリと入って出てきました。

(熊谷副委員長) 瓦の出土の仕方が全然違う。

(中村委員) 雨落ちを石敷きにすると、素掘りと比べてどうでしょう、効果的には。

(室野委員) やはり石で護岸してある方が長持ちするのではないのでしょうか、溝としては。

(関委員) どちらかに捌かすというのは考えないのでしょうか。あれだけ水が溜まるというのは、当時もそうだったのかどうか。

(中村委員) だから、水が溜まるというのは気になりますね。それだけ水が溜まるのであれば、効果がどういう感じになっていたのか。雨が降る度、屋敷の下が水浸しになるのは。

(佐藤教育長) 傾斜あるというのは、逆にそういうことかなと思いましたけれども。

(室野委員) 水の仕舞い方とすれば、傾斜がついていた方がよい。今は溝が無くなって排水施設が全く機能しない状態になっているので、あのよう水が溜まるのだと思います。本来はどこかに、堀の中に落としたり、段丘崖の方へ落としたりということがあったはず。その辺りは、今後調査していけば分かると思います。

(熊谷副委員長) 基本的なことですが、「本丸御殿」と呼んでいいのでしょうか？これは一般名称ですか？本丸に建っている御殿のような建物は「本丸御殿」と言う？

(佐藤教育長) 何か書き物に出ているのでしょうか。

(菊池主査) 「御殿」という史料は『城代日誌』などに記述はあった気はします。

(熊谷副委員長) それであればいいのですが。花巻城をどのように捉えるかによって本丸

御殿という名称が問題となる。やはり特殊な城であるということからする、安易に本丸御殿というのは…。

(中村委員)『内史畧』には「御殿御修覆」と書いてあるから、「御殿」とは呼ばれているんですね。それを「本丸」を付けるかどうかは、それは検討が必要だけれども。

(熊谷副委員長)例えば名古屋城とか、熊本城の本丸御殿に相当するようなものなのかと。

(佐藤教育長)区割りでは本丸でいいのでしょうか。

(熊谷副委員長)本丸ですね。そこにある建物を「御殿」と呼んでいたという記録があるのであれば「本丸御殿」でいいと思うのですね。ただ、いわゆる本丸御殿というのは、近世城郭の中での本丸御殿に相当する施設なのかどうかというのは吟味が必要だと思います。遺構名称が独り歩きする可能性がありますので。九戸城などは、何と呼んでいるのですか？

(関委員)御殿らしき建物は出ていないのです。「主殿」くらいでしょうか。九戸城では、礎石が全部抜かれています。

(熊谷副委員長)「本丸御殿」と呼んでもいいでしょうね。

(高橋委員長)今年の調査は、委員の先生方から色々お話しがありました。非常に大きな成果が上がったと思いますけれども、これも含めて協議の(2)の花巻城跡保存計画の策定について事務局から説明をしていただきたいと思います。

(2) 花巻城跡保存計画の策定について

※(事務局から説明) 資料No.4

(高橋委員長)ただいま、一応この計画では今年度で終わりということになっていた訳ですが、先ほども報告ありましたとおり、非常に様々な成果が出てきている、更に補充の調査が必要だということで、調査を更に2年間延ばすという、そういうことなのですが、委員の皆さんのご意見を伺いたと思います。

(熊谷副委員長)来年度は、発掘はしないのですね。もったいないですね。

(中村委員)令和3年・4年にまた調査するのであれば、2年に報告書出すよりも最後にまとめて出した方が、本当は一番いいのでしょうかけれど。概報みたいな形になりますし。

(熊谷副委員長)そうですね。あくまでもやっぱ中間報告で。現状、まとめていただいたわけですが、御殿の規模とか位置関係がまだ特定できないうちに報告書出すのは、ちょっと

肝心なところが触れられないのではないかという。あとはもう一つ、令和3年・4年に調査を復活させるにせよ、3年・4年を含めて全体的な発掘計画を立てた上で、具体的に3年に何をやるか、4年に何をやるか、どうまとめていくかという全体計画を立ててですね、具体的な発掘箇所を選定していくということになるわけですし、そうなってくると、例えば本丸部分についてはやはりもうちょっとという意見がたぶん出てくると思いますし、あとはそれ以外のところ。花巻城に関する全体的な保存計画を作っていく上で、あと必要な箇所がないかどうかというような吟味も必要ではないかと思うのですが。

(高橋副委員長) たぶん細かく見れば補助金などの関係で、報告書を作成する計画でやってきたからということかと思いますが。それが中途半端な形で出して、また出すのもどうなのか。そのあたり、この報告書刊行というのは、もしかしたらそういうことですか。

(佐藤係長) そうですね。当初計画の中で本丸の調査後に報告書刊行と。来年度の補助金については今週に文科省から来ることになるのですけれども、2ヵ年分の調査をした成果ということでとりまとめるというのが当初の考え方でしたので。それをこの令和2年度という部分に入れているところになります。ご意見のとおり、中間報告という形ではなくて、引き続きの調査と合わせて報告書を発行するというのも、魅力的には思いますけれども。

(高橋委員長) その辺も検討してもらったほうがいいでしょうか。

(関委員) もし可能であるのであれば、計画の変更申請も可能では。厳しいでしょうか。

(佐藤係長) 報告書を出さないということについては、変更申請はできますし、近年の動向からいきますと3割カットされている状況、あとはかなり厳しい状況にもありますので、その辺りは調整は可能かと思います。

(高橋委員長) やはりこの全体の計画でさらに調査が必要だということは、これは委員の皆さんのご意見そのとおりでいいと思いますので、あとは具体的にそれをどうするかということと、もう一つは、先ほど熊谷先生からありました全体像の中で、今後とりまとめるために調査が必要なかどうかということのも、少し検討してもらったらいかがかと思います。

(中村委員) 個人的には、二之丸の遺構が無いグラウンドのところがありましたね。あの部分を少し下げて、いわゆる本当に中世の面なのかどうなのかということ、黒いところを少し面的に上げて。やはり本当に確実にそうであるとなれば、また保存計画が、中世も近世もうまく残っているという形にはいけるのでしょうか。ただ近世の花巻城だけではなくて、やはり中世部分もまだ残っているというところを何とか押さえない。私の個人的な考えで

は。

(佐藤教育長) 中世部分を確認したのは、南御蔵と本丸ですね。

(中村委員) それも僅かのグリッドです。いわゆるトレンチの「溝」ですから、本当にその面が中世なのかということで、少し面的にあたって。それが本当に中世の面であるならば。

(熊谷副委員長) 中世であれば、いわゆる瑞興寺段階とか第Ⅰ期段階、あるいは第Ⅱ期段階の、層位としてはこの辺が可能性が高いだろうというのは分かるのですが、それでは具体的にどういう姿であったとか、どういう占地の仕方だったのかっていう情報は全く無いですね。いわゆる19世紀段階、幕末期・文化以降の花巻城の姿—幕末期の花巻城の保存に対するデータは進んできているのですが、古い時代のものは、ある意味ほとんど分からないままです。これまでは大規模な盛土工事が、かなりの範囲に亘り、本丸だけではなく、二之丸・三之丸も行われたということが分かっている程度です。やはり、全体的に見れば花巻城のあの堀の凄さなどの全体が、データがまだ少ないのではないかと。本丸は今のところで、さきほどあったように南端を確認することとか図と整合性を持たせるというのは、やればある程度分かると思う。ただ、それは花巻城の最後の姿であって、最初の姿はやはりまだ見えていない。そのためには、今の検出されたところを大きく下げないと、1m以上も下げないと出てこない。でもそれは、できないわけですね、遺構を壊してしまうから。そうすると、それ以外のところで、やはり中村さんが言うように、ある程度面的に確認することが必要かなと思うのですが、それは、大変な調査になると思うのですよね。

(中村委員) いや、それほど広くはやらなくても、ある程度それが本当に中世の面であるかという、遺物の量とか、そういうのを確認できればいいかという気はするのですが、今この段階ではまだ推定としか言えない。1片、2片の遺物で見ているのですから、やはりその辺がどうなのかなという気がしないでもありません。

(高橋委員長) 私は率直に、一番最初はざっと本丸を調査すれば県指定くらいにはしてもらえるかと。そして花巻城を知ってもらおうという程度が端緒でした。実際掘ってみたら、「いや、残っているのではないか」という、「花巻城意外と凄いぞ」という段階に来たような気がするのです。そうするとやはり本腰入れて、花巻城っていうのを県指定にしてもらいたいとか何かそういう話よりも、花巻城の姿が何か見えてくるような気がしていますので、そういうものも含めてもう少し。今年度で終わりという一つの計画の中で更に延ばし

たいということですので、ここで今これを取りまとめてしまうのか、もうちょっと検討してもらおうのかというあたり、ちょっとご意見をいただきたい。

(熊谷副委員長) 資料4にあります、3の本丸跡等発掘調査継続の必要性の2番目の所です。ね、「考古学的情報の蓄積を行うことによってより具体的な説明が可能となる」と。その具体的な説明というのは、具体的にどういう説明なのか、という事になりますと、現時点で歴史資料・文献史料に残っている絵図面と発掘成果を統一させるという見解、それによって具体的な本丸の建物、本丸御殿の姿というのがバーチャルでも作れるような具体的な成果があがったのですよ、という事ですね。それからもう一つはやはりこれまでの調査で、花巻城は創設段階でかなり大規模な、今の地形からは伺えないような大規模な土木工事を行っている。その土木工事全体の仕事量っていうものがまだ把握出来ていないのではありませんか。それから具体的な説明の中では、やはり城割というか縄張りというか、花巻城全体の、—これは室野さんに聞いた方がいいのかもしれませんが、全体の構造っていうものが、いわゆる段丘面の全体の中でこういった仕事をして構築したのか、などというような、まだまだ具体的な説明が。市民にとって関心の高い例えば、北松齋の時の姿はどうかとか、そういった説明がまだできかねるのではないかと思います。やはり指定云々も大切なのかも知れませんが、花巻市民にとってこの花巻城というのはどういった城であったのか、一つはやはり文献的に、或いは歴史学的に考究していくというのと併せて考古学的事実を積み上げていくという作業と、やはり2つの基本的な軸線としてですね、持った方がいいのではないかと。今までは考古学的な調査で本丸の様子とかが次第に分かってきたのです。それが盛岡藩の中における花巻城の位置付けですとか、そうした全体の中でどういう風に評価できるのかというような、歴史上の評価もですね、これからは保存計画の作成に向かっては必要ではないかなと思います。

(室野委員) 確かにすごく巨大な城館なので、全体を見通した調査の仕方っていうのも当然検討しなければいけないと思うのですが、あまり規模を広げた調査っていうのを今出来ない状態です。ですからある程度本丸に絞った形で当面はやらざるを得ない。確かに中村さんがおっしゃるとおりに、二之丸の空いている所狙って深掘りして、ある程度面積を、中世の遺構を確認するという作業も今後は必要になってくると思うのですが、例えばそれをこの令和5年度までの間にやらなければいけないかという、まだ待っても。仕方ないのかなと私は思いますね。

(熊谷副委員長) 室野さんはどちらかと言えば本丸をきちんと。

(室野委員) はい。今の状態では確かに色々各方面に発信するにしても情報が多分に不足しているところがあると思いますので、せめて御殿の一角だけでも確定させるということと、あとは、本丸の虎口の問題がありまして。西御門が復元はされているのですが、御台所門のところは構造がまだよく分かっていないということ。それから本丸の南西隅の三社があったという所が櫓台になっているのですが、あそこに実際に櫓が建っていた時期があるのかどうかということ。それから菱櫓の方、東端の。

(熊谷副委員長) それを掘るということですか。

(室野委員) 必要になってきます。そういったことをですね、今のペースで調査を続けて、そういった本丸の所に。

(佐藤教育長) 酒井さん、御台所御門の調査結果はあるのですか？

(酒井専門員) あります、瀬川先生が掘られた。室野先生に見ていただいたわけですが、裏込石がきちんと出てきましたので、図面のように石組があっただろうというところまでは。

(室野委員) 私、写真は拝見しているのですが、裏込石が確かに、石がたくさん出ているのですが、石垣の根石が出ていないですね、まだ。

(酒井専門員) はい、まだです。

(室野委員) ですからそういう所なんです、問題は。石垣の輪郭が分かりません、まだ。それから門の位置がまだ把握されていない。

(熊谷副委員長) あそこは斜めに入ってくるでしょう？

(室野委員) 二之丸から土橋を渡って入って、クランクに、曲がって入りますよね。あの虎口の形態は盛岡城にも、今は現存していないけれどあった虎口の形態ですし、あと和賀の岩崎城にもある虎口の形態です。盛岡藩に於けるある時期の虎口の形態が分かるころですね。ですから西御門みたいに復元するかどうかはともかくとして、ちゃんと調査の成果として押さえておくべきポイントかなと思います。御殿の一角をとらえるっていう事と、本丸の主要な門や櫓の施設はどうだったかという事ですね。その辺はやはり出来ればこの令和5年度までに報告書を刊行するという事であれば、ある程度見通しがつけられれば最高かなと私は思いますがいかがでしょうか。

(中村委員) すると二之丸を掘るところではありませんね。

(佐藤教育長) 全部掘らなければ。

(中村委員) 本丸だけで終わりますね。

(佐藤教育長) やはり必要最低限、MAXで必要なものが何で、それで出来ることがまず何で、ということも積み上げしなければならないですけれども、実際来年は厳しいでしょう、発掘調査は？

(菊池主査) そうですね、報告書の刊行費用と室内整理の費用しか。この計画に基づいてでしたので、予算要求は。

(佐藤教育長) 計画変更は出来ないのですか？

(佐藤係長) たぶん難しいと思います。

(県教委高橋専門員) 当初申請をこれからですか？先週文化庁にヒアリングに行ってきましたので、その計画とまた変わるとなると、また文化庁に説明が必要になりますので。不可ではないですけど、これから協議が必要かと思います。ですので、補助金担当者にご相談いただければと思います。

(平野課長) 3割カットという話を前にされていますよね？そうすると、今の計画から大きくするわけですから、出来るのかな？と疑問です。

(佐藤教育長) 出来る範囲でしかできないということですね。

(平野課長) いまお願いしている花巻城関係の分の中で、出来る範囲はできると思うのですが、それほど大きな金額は、来年度はお願いしていません。

(熊谷副委員長) やはり、あまり手を広げないという事ですね。それからやはり本丸で着手した以上は、本丸の結論はちゃんと出さないとという事で。また、来年度はやはり厳しいという事ですね。

(中村委員) 先ほど言った「御台所御門だけ」とかさ、小さい範囲とかっていうのを。

(熊谷副委員長) ただ、あそこの部分は決して保存状態が良くないですね。

(室野委員) 良くはないのですけれども、たぶん発掘すれば土墨の輪郭とか。

(関委員) 根石の列。

(室野委員) 石垣の根石だとか。

(佐藤教育長) よし、わかりました。

(室野委員) それから門の場所もですね。門は確かに絵図のとおりの位置にあるとは思いますが、そういったのは把握できると思います。

(熊谷副委員長) 東側には土墨痕跡というのはあるのですか？

(菊池主査) 土塁は、菱櫓の付近までは連続するわけですが。

(熊谷副委員長) 本丸部分が全体的にどういった建物から成るか。御殿の絵はあるし全体的に他はどんな施設があったのかという情報は絵図でしか分からないでしょうか？

(菊池主査) 基本的には絵図です。

(室野委員) あと、井戸のところには当然上屋があったはずですから、上屋の礎石もできるなら、ほんとは確認できればいいですね。

(関委員) あれは蓋してあるだけで、中はまだそのままになっているのですか？埋め戻されてはいない訳ですか？

(菊池主査) 蓋してあるだけなのです。

(高橋委員長) 年度末に近づいて、もう来年度の予算が決定するという中でこの事なので、委員の皆様だけのご意見で決まるわけでもちょっと行かないと思いますので。どうですか、概ねこういう方向でということのを了承していただくという事で。あとは教育委員会さんのほうで更に今日の意見を踏まえて検討して来年度の調査するかどうかも含めてですね。

(熊谷副委員長) 出来たならば、最終的な令和5年度の最終報告書に向けて、本丸部分を中心に、あとどこをどう調査していくかっていうのを。来年度は無しです。令和3年度、4年度の2ヶ年に亘る発掘計画は、着手前といいますか、来年度中には策定しておいた方がいいような気がします。令和3年度になってからここを掘るというのを決めるのではなく、その年度・年度で決めるのではなく、将来的にはここをこういう形でやっていくという将来計画も含めたものを来年度策定していくと。ですから並行してやっぱりその保存計画というものは、準備を進めて行って載せたいと思います。

(高橋委員長) ということでよろしいでしょうか。あとは事務局のほうでお願いします。

4 その他

(平野課長) お疲れさまでした。〔4 その他〕でございますけれども、事務局では特に準備しておりませんが、委員の皆様から何かございますでしょうか。

5 閉 会

(平野課長) 長時間に渡りましてありがとうございました。以上をもちまして令和元年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。